

藤木しんや参議院議員、

抱負を語る！

全国農政連推薦、本県農政連公認の参議院全国比例代表で初当選した「藤木しんや」氏は、次のとおり抱負を述べました。

今度の選挙戦を通じて、私が常々感じていた「農業現場と国の方針とのギャップ」について、どの遊説先でも皆さんに納得していただけたようでした。

日本農業は家族経営が基本であり、「安定した経営がしたい」ということが、今の農家の願いです。経営が安定しないことには、次のステップに進むことなどできないと思います。国は「農政新時代」のもとに、「競争力強化」や「成長産業化」、「攻めの農業」という方向に舵を取っている状況ですが、経営安定対策が最重要であることを、国政の場で強く訴えていきたいと思っています。

また、今後は、環太平洋連携協定（TPP）の国会審議、産業競争力や規制改革会議による生産資材問題、生乳指定団体制度の見直し、米の生産調整対応、経営安定対策など、農政課題が山積しており、本当に大変な時期を迎えます。私は、これまでの経験を活かし何としても農家の声を国政の場に届けるため、ご支援を頂いている組織と密に連携をしながら、仕事をさせて

いただければと思っています。

「皆さんと同じ、百姓の一人として東京で頑張る」という初心を忘れず、国政の場で奮闘いたします。全力で日本農業の明るい基盤づくりに取り組みます。今後とも皆様からのご支援どうぞよろしく願っています。

（藤木しんやメールマガジンNO. 35から掲載しました。）

藤木しんや氏初当選における

都道府県別獲得票について

第24回参議院通常選挙は、与党が改選議席121の過半数を大きく上回る70議席を獲得し、大勝と報じられていました。

しかし、TPPや農政改革における現政権の強硬な姿勢に、農業の生産現場や地方の不信は根強いものがあり、特に東北、甲信地方における一人区では野党連合にほとんど完敗を期しています。

このような状況下で、藤木しんや氏は、「今の農政ではいけない」という思いの一方で、「政権与党の中においてこそ自分たち生産現場の主張が反映で

きる」という強い気持ちで挑んだ選挙であったと振り返りました。

藤木しんや氏が全国比例代表として獲得した票は、左表のとおりです。東北地方や山梨県、長野県で得票が伸び悩んでいるのは、政府の強引な姿勢が背景にあるものとみられます。

また、他県における農業票でも、野党連合へ流れたと推測されることから、政府与党がこれまで進めてきた、TPPを言めた農業政策を生産現場が信任しているわけではなく、むしろ怒りさえ感じさせます。



▲参議院比例代表選出議員当選証書を手に入



▲総務省で中央選管委員長より当選証書を付与される藤木氏

「藤木しんや」氏の都道府県別得票数

| 都道府県名 | 得票数 | 都道府県名 | 得票数 |
|-------|--------|-------|---------|
| 北海道 | 4,342 | 滋賀県 | 1,983 |
| 青森県 | 340 | 京都府 | 539 |
| 岩手県 | 726 | 大阪府 | 1,671 |
| 宮城県 | 2,860 | 兵庫県 | 2,238 |
| 秋田県 | 335 | 奈良県 | 2,116 |
| 山形県 | 365 | 和歌山県 | 559 |
| 福島県 | 1,592 | 鳥取県 | 108 |
| 茨城県 | 16,259 | 島根県 | 6,699 |
| 栃木県 | 4,837 | 岡山県 | 1,401 |
| 群馬県 | 5,104 | 広島県 | 5,280 |
| 埼玉県 | 5,502 | 山口県 | 2,172 |
| 千葉県 | 1,827 | 徳島県 | 1,987 |
| 東京都 | 6,506 | 香川県 | 2,382 |
| 神奈川県 | 2,517 | 愛媛県 | 3,208 |
| 山梨県 | 620 | 高知県 | 340 |
| 長野県 | 597 | 福岡県 | 15,918 |
| 新潟県 | 10,312 | 佐賀県 | 4,025 |
| 富山県 | 4,572 | 長崎県 | 6,234 |
| 石川県 | 6,879 | 熊本県 | 42,744 |
| 福井県 | 2,898 | 大分県 | 3,062 |
| 岐阜県 | 7,473 | 宮崎県 | 6,602 |
| 静岡県 | 7,888 | 鹿児島県 | 7,130 |
| 愛知県 | 15,481 | 沖縄県 | 1,725 |
| 三重県 | 6,164 | 合計 | 236,119 |